

象徴する光景です。 かれながら練り歩く姿は、 立てる提灯。そんな山車が多くの人に曳 かな色づかい。 美しさに花を添える精緻な彫刻や、 高々とそびえる威容を飾り 日本の祭りを

つもの山車や屋台を見ることができます。 現在でも宮まつりや菊水祭などで、いく

> 盛り上げていたのです。 多くの山車や屋台が、競うように祭りを 大正時代までは、 もっとずっと

> > はないのですが、上の世

「私自身は昭和の生まれですから見たこと 幸雄さん(㈱うさぎや会長)は、 (以下「山車プロジェクト」)会長の檜山 「宮のにぎわい 山車復活プロジェクト」

盛期には81種類もの山 の祭礼町から、 べて見ますと、 たそうです。記録を調 **菊水祭に登場し市民に** 後期から明治にかけて、 や屋台その他の出 記録によると、江戸 さぞ壮麗だったこと したようで なんと最 市内の39

天皇の御即位を奉祝し

盛大さは空前絶後と絶

の後、残念ながら、宇都宮空襲で多くの と残念がります。 貴重な文化遺産とともに灰になりました」 世界恐慌へと時代が激動していきます。そ 翌年になると、第一次世界大戦が始まり、

明治17年に県庁竣工祝賀の祭典

て行われたもので、その

賛されました。 往時の壮麗さをうかがわせるのが、

の藤井昌一さん(藤井 代の方によると、それは 産業㈱社長)は、 の出し物は、大正2年 もうすばらしいものだっ えています。 を最後に、 **愛されてきた山車など** 同プロジェクト副会長 「大正2年 ぱったりと消

明治 17(1884) 年 県庁新設祝賀 之図(宇都宮市

山車の一部、火焔太鼓の仮展示(宇都宮城址公園まちなか情報館)



# 壮麗な「火焔太鼓の山車」宇都宮市所有の豪華、

容に、誰もが圧倒されるのではないでしょ まずは●の古い写真を見てください これは江戸時代に新石町が建造し、 宇都宮市が所有する市民の山車な ルを超す、 壮大な山車の威

江戸時代、宇都宮の祭りは 江戸の天下祭に比肩するほどの 賑わいだったことを、ご存知ですか?

練り物が繰り出した菊水祭。

について、ご紹介します。

そんな時代を今につたえる

火焔太鼓の山車復活に取り組む

「宮のにぎわい 山車復活プロジェクト」

かつては、80を超える山車や屋台、

戦前までは祭りに欠かせないものだったこ 注目が集まりつつある、「山車」 れらの出し物ですが、 地方の祭りに登場することは少なくなって 高度成長期以降は や「屋台」。

のは、華麗な装飾でしょう。 祭りの楽しさ、

0

明治42 (1909) 年巡行写真(宇 都宮市教育委員



旧新石町

特集 1:山車復活で地域おこし

近年、「まちおこし」に関連して各地で

山車や屋台というと誰もがイメージする

取るようにわかります。 です。新石町だけでなく、 し物が総出で、盛大に祝った様子が、 同プロジェクトが復活をめざしているの 宇都宮中の出 手に

は、そんな歴史の経過を生き抜いて保存さ

(現伝馬町、



Utsunomiya×Matsuri 🛭

文化財であることが判明しました」と言 年代は不明ですが、江戸時代にさかのぼる 家による調査を行ったところ、正確な建造 なかったそうです。 それが平成23年に専門 ことができるのは間違いない、 歴史や由来などはあまり分かってい 大変貴重な

する清住通りのまちづくり事業でした。

展示していたのでは」と声があがりました。 ば、新石町の火焔太鼓を宇都宮市で保存 文化を軸とするまちづくりのアイデアを語 2年間で21回もの会合を重ねる中、 した。その過程でメンバーから 「そういえ した「清住通りまちづくり検討部会」は、 検討部会は平成23年5月に報告書を出

調査に参加した東京藝術大学大学院の 山車全体を復元し、

また彫刻師で鹿沼市文化財保護審議委

### 復活プロジェクト まちづくり検討から トした

の飾りの一部です。 ているわけではありません。●の写真でもっ とも目を引く火焔太鼓の部分と、その下 残念ながら、新石町の山車は、全部が残っ

55年に宇都宮市に寄贈されました。 り壊す際に、その中から発見され、昭和 火焔太鼓は、道路拡幅に伴って蔵を取

樹さん(㈱たまき社長)は、 同プロジェクトの事務局長である田巻秀 「その時点

実は、調査のきつかけは、新石町に近接

平成22年に、 多岐にわたる勉強・調査を行いま 市民有志によってスター 歴史

による調査が行われました。 が発足。それに先立つ5月~6月に専門家 き継ぐ形で、同年7月に山車プロジェクト して活動を終了しましたが、その志を引

す」と評価しています。 ボルとして、 華飾りなど主要な部分が管理保存されて は失われているものの、火焔太鼓や金龍荒井経准教授は、「壮大な山車全体のご ある街であることを示す菊水祭復興のシン 現存している主要部分を取り込 活用していくことを提案しま 火焔太鼓や金龍、 宇都宮が歴史

員でもある黒崎孝雄さんも「調査のとき に拝見した火焔太鼓の大きさに圧倒され、

龍の彫刻の躍動感と迫力に感動を覚えま した」と感激を語りながら、

な装飾部品のほとんどが保存されていま ますから、復元は可能です」と断言しま 「構造部材は失われているものの、 復元の手がかりになる古写真もあり 重要

田氏の作では」と推測しています 多くを手がけた宇都宮宿馬場の彫刻師高 ら見ると、 見ると、江戸時代に彫刻屋台や山車の黒崎さんは、さらに「龍の彫刻の作風か



### 新たな時代の山車を 復一元へスター

プロジェクトは活動の方向性を定めます。 こうした専門家の評価をもとに、 山車

 $\bigcirc$ 

復元をめざす。

ぎわいです。 きたいという想いが、 らにぎわいにつなげてい にもこんな歴史文化が な昨今、このプロジェク ると元気が失われがち なのはプロジェクト名に ではありません。 重要 単に復元することだけ していただき、 あったのか』と再認識 もあるとおり、 より重要なのです」(檜 トを通じて『宇都宮 もちろん、 ややもす そこか 宮のに 車を

です。 状態がいいと言っても、 トルという巨大なもの 車軸の長さも約3メー 長さは約3メー 元図のとおり、 車の全体像は図3の復 しく調べれば傷みや トル以上、 また比較的保存 トル半、 高さ8

4

宇都宮を代表す る祭りの 一 つ、 菊水祭

現存部分を取り込み、 査と修復保存作業を行う。 貴重な文化財である現存部分の調 平成26年の菊水祭巡行をめざす。 山車全体の 始めました」(田巻事務局長) に作らねばなりません。 た失われた土台や車輪など、 「資金面では、募金を募ることになりま 1口1万円で広く呼びかける活動も

### 章があります。 化財調査員の池田貞夫さんが、プロジェク 歴史文化の背景を探る菊水祭と山車 トの意義や歴史的背景についてまとめた文 にご連絡ください) (募金の詳細については、記事末の問合せ先 くことも計画しているとのことです 山車プロジェクト役員であり宇都宮市文

## 山会長) 過去の

とはいえ、 土台の

# 

多くを新た

事や氏子町を一周する鳳輦(神輿)日、日曜日の二日間にわたり、流鏑馬 渡御が行われている。(4) 余を数える。今日でも10月最終の土曜 を持つと伝えられ、その歴史は330年 菊水祭は、延宝元年(1673)に起源 宇都宮二荒山神社の祭礼として名高い 流鏑馬神 0)

募金箱などを設置し、志を入れていただ

その他にも、折に触れて行う展示の際に

たと伝えられている。(中略) りとして天下に鳴り響き、江戸の天下祭 熱狂ぶり、 は、祭りの規模、出し物の数、 れてきた。この付け祭り〈宇都宮の祭礼〉 練り物の繰り出し、手踊り狂言が上演さ りとして、町民が主役となった山車や屋台、 昭和期の戦前までの菊水祭では、 (山王祭・神田祭)と肩を並べるほどであっ しかしながら、江戸時代から明治、大正、 賑わいにおいて、 全国屈指の祭 氏子らの

少々長めですが、

抜粋し



5 天地人 July 2012

10月下旬

菊水祭

オリオン通り商店街振イベント同 11月上旬

(うつのみや表参道スクエア) 第37回ふるさと宮まつり

の調査活動と、市民への周知を行ってきま

て、積極的に展示を行い、

市民に周知し

イベント等の機会をとらえ

ていく予定ということです。

25日に設立総会を行った後、

修復のため

さて、

山車プロジェクトは平成23年7月

取り組んでいく夢の実現に、力をあわせて

屋台

は社会の近代化の流れの中で、焼失、 屋台も、戊辰戦争や宇都宮空襲、更に 町山車は現存しており、 れでも伝馬町屋台と蓬莱町屋台、 残念ながら、これら隆盛を誇った山車、 **6 6 7** 大半の山車、屋台を失った。そ 今も活躍してい 本郷

可能な最高級の文化遺産である。 分がほぼ完全な形で残存しており、 言えば、新石町の山車は構造部材を除い 台あるが、 火焔太鼓や彫刻、万灯などの装飾部 その一部が残存しているものが数 江戸時代に起源を持つ山車につ 確認されていない。その点から 宇都宮には原型を保っている

形屋台と記されており、 台を出し、手踊り狂言(清元)を行って 祭りに参加している。 山車や芸屋台、 新石町は付け祭りが始まった延宝元年 今に残る火焔太鼓の山車は、 すでに「十六番の祭礼町」として 文政年間には踊り屋 当時の出し物は人 その後、 武蔵野

> 場している。その後、明治時代に度々繰 絵巻によると弘化4 り出され、大正2年にも出ている。 (1847) 年に登

な文化遺産であり、何よりも、隆盛を誇っ 時の山車の形式や構造を知る上でも貴重 た山車である。 た付け祭りの生き証人でもある。 くとも 160年は経過していると考えら 新石町の山車は、建造されてから少な 江戸時代の宇都宮の町中を練り歩い しかも、 江戸時代の当

受け継ぎ、ぜひ山車を甦らせることが、 地域の活性化に結びつくと確信する。 力が秘められている。 その思いを今こそ けた心意気、技、エネルギー、 山車には、宇都宮の先人の祭りにか

## 宇都宮のパワーを感じるすばらしい技術に感嘆、 ーを感じる

のパワーの象徴でもあります。 このような背景を持つ山車だからこそ、 多くの市民が復活に期待を寄せている 歴史の中の字都宮を知るよすがであ (中央)に負けない宇都宮 単に一地域の山車復活ではな (地方)

> やらなくてはいけないと、 の伝承という意味でも、

そういった高度な技術は、それだ

れています。

技術の伝承、

歴史文化

腰をすえて

違った発想による高度な技術が使わ 動いてはいけない建築物とはまったく 動いてはハナと、これもなり歩くもので、車や屋台は引いて練り歩くもので、

ですが、調べれば調べるほどその合理的な 復元はそれほど難しくないと思っていたの 設計事務所長)は、 長である建築家の藤原宏史さん(宿藤原 を務めている、宇都宮市教育委員会委員 山車プロジェクト役員として修復部会長 「関わった当初は、



いうことは、それだけ宇都宮がすばすから、こうした山車が残っていると

す」(藤原部会長)

しい町であったという、

度な文化や技術は維持できない。

「町全体の総合力がなければ、

流も重要ですから、 欠です。さらに、

くなくてはいけません。

らに仕事を発注する依頼人が不可 定数以上の技術者集団の存在や、 技術をマスターできる環境として、 けで存在するものではありません。

外部からの技術交 交通の便も良

「山車の床材や山車部材の収納箱などに 存在」になることは間違いないでしょう。

「まだ道のりは遠いですが、

さまざま

歩着

図取材協力

ではないでしょうか

司からお話をいただいた時には、 市民に親しまれてきた鳥居です。 宮のシンボルである二荒山神社の顔として、 しかったですね」 「昭和21年に建てられ、 (田巻事務局長) 約60年間宇都 本当に嬉 助川宮

「市民にとって身近な

われました。 を関いて使用することも決定。6月に搬出が行れの旧鳥居の寄贈を受け、修復材料としまた、平成20年に解体された二荒山神

使用する予定で、準備を進めています」(藤 象徴するプロジェクトとして、 地域のことではなく、 現させたいですね。 実に進めていきたいと思います。 なってがんばりますので、 い再生の起爆剤として、 な方にご協力をお願いし、なんとしても実 『新石町』という狭い 宇都宮の歴史文化を メンバーが ぜひ皆さまのお まちのにぎわ

一丸と

貞夫さん(宇都宮市文化財調査員)

田巻秀樹さん(㈱たまき社長)

孝雄さん(彫刻師)

経さん(東京藝術大学大学院准教授)

力添えをお願いします」(藤井副会

「新石町は、

現させたいと思います」(檜山会長) 貢献できることだと思います。 ことが、 が分岐する追分であり、 宮にとっては、本陣などもあり、 はそのシンボルです。 分ルネッサンス』として盛り 所でもありました。ですからここに 力を合わせ、菊水祭での巡行を実 もう一度スポットを当て、 人文化の中心地だったのです。 単なる一地域、一文化財の枠を 宇都宮全体の活力アップに ぜひみんなで いわば『追 交通の要 上げる 街道 山車

超えて、宇都宮全体の活性化に寄 成功体験を起爆剤として、 与するポテンシャルを持つ山車プロ 与えてくれる、素敵なプロジェク 大きな「宮のにぎわい」 きるかも知れません。 これが成功すれば、 そんな夢を が実現で さらに

昌一さん(藤井産業㈱社長)

ジェクト。

今では考 Utsunomiya×Matsuri 🔊

彼

宮のにぎわい 山車復活プロジェクト事務局 2634-6810 (株)うさぎや内) e-mail usagiya@sun.ucatv.ne.jp

本郷町